



津和野川は日本海に注ぐ一級河川高津川の支川で流域面積139.1km²、全長37.31kmの河川です。津和野川が流れる津和野町は「山陰の小京都」ともよばれ、古い町屋や掘割の水路など城下町の情緒を残した自然豊かな町です。

町ではこれまで「津和野町環境保全条例」を制定するなど、歴史的な街並みや周囲の良好な自然環境の保全に力を入れてきました。そのような中で、島根県と津和野町では平成元（1989）年から「ふるさとの川整備事業」による河川再生を開始しました。この事業では津和野川や掘割水路等の水辺が町の文化にとっての重要な要素であることから、津和野川と町並みを一体的に整備して、観光資源にも活用して地域活性化の目玉にするものです。

「ふるさとの川整備事業」では津和野大橋を中心とする2.94kmの区間を7つのゾーンに分け、それぞれにテーマを決めて整備が進められました。津和野川に散策路、階段護岸などを整備し、川に親しみやすい空間、また、津和野城の石積みにあわせた石積みで護岸が作られました。

たとえば、「であいのゾーン」では、地元の神事「鷺舞」の像がある「津和野大橋橋詰めであいの広場」、川に開かれた庭園広場「川原の庭」などが整備されています。「まつりのゾーン」では、太鼓谷稲成神社の元旦祭、伝統行事の鷺舞、灯ろう流しなど、さまざまな行事を楽しむよう「まつりの広場」が作られています。



津和野川と津和野町



町中の掘割水路



津和野川の再生状況